

1. 評価結果概要表

作成日平成21年10月23日

【評価実施概要】

事業所番号	3171400223
法人名	医療法人 誠医学会
事業所名	グループホームころの里
所在地	鳥取県東伯郡北栄町瀬戸38-5 (電話) 0858-37-3188

評価機関名	社会福祉法人 鳥取県社会福祉協議会
所在地	鳥取県鳥取市伏野1729-5
訪問調査日	平成21年10月7日

【情報提供票より】(21年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 12年4月1日
ユニット数	1 ユニット
職員数	9 人
利用定員数計	9 人
常勤	9人, 非常勤 人, 常勤換算 9人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り
	1 階建ての 1 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(9月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名		
要介護3	3 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 89 歳	最低	78 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	宮川医院、仲齒科医院
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は、閑静な田園地帯にあり、近隣には同一法人が運営する老人保健施設と医院が併設され、地域の医療、保健、福祉の拠点になっています。事業所の理念である「家庭的な落ち着いた雰囲気の中で入居者の尊厳を大切に、穏やかで充実した暮らしを支援し、地域に愛されるホーム」を目指し、職員は利用者本位の生活、サービスの質向上、地域交流強化などのテーマについて日々取り組まれています。また、「いきいき生活ケア班」を編成し、入居者会、家族会等を開催し、利用者の目線に立ち思いを汲み取りながら支援が行われています。地域の行事への参加や事業所主催の講習会(認知症について等)に地域の参加を促す等双方向の関係作りを通し、地域の一員として事業所の役割を担う取り組みが行われています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	新しく自治会に加入し、日々の暮らしの中での関わりが増えるとともに、行事を通じての交流など、より地域に根ざした事業所づくりへと活かされています。今後も防災などで連携していくよう、具体的な内容について検討されています。外出支援については、日ごろのちょっとした気分転換なども含め、利用者の状態に応じて行えるよう取り組まれています。評価を通じて気づいた点を検討し合い、日々の生活支援、行事等に活かされています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価を行うことの狙いについて資料が作成され、職員個々に意義が浸透しています。自己評価は職員全員が個別に作成し、まとめていく段階で共有され、運営者に報告されています。評価をもとに改善計画シートを作成し、年間計画、目標に反映されています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、自治会長、町職員等をメンバーに2ヵ月に1回開催され、サービスの在り方、防災、外部評価などについて意見交換が行われています。また町へは普段から事業所の状況を伝えたり、町が行う研修会に事業所職員が参加する等、双方向の関係が築かれています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	広報紙の発行、来所時の面談などで健康状態等利用者の様子が伝えられています。利用開始時における第三者機関を含む苦情受付の案内をするとともに事業所内にも掲示し、意見箱の設置もされています。日ごろからの聞き取り、運営推進会議及び家族会などでも意見収集に努められています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	月に1回オープンデー(地域住民との交流行事、講習会等)を開催し、地域との交流、事業所への理解を深める取り組みをされています。その際にはチラシを作成し、自治会を通してPRをされています。また、普段から地域住民から食材をいただくなど、地域との相互の交流が深まっています。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者本人の望む生活の実現を支えるケアを目指し、地域の中でその人らしく、また地域に愛されるホームであるよう、事業所の職員全員で意見を出し合い、理念が作り上げられています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送りの際には職員全員で理念を読み上げ確認されています。ホーム内の目につきやすいところに掲示されるとともに、利用者に接する際にも理念に沿った対応ができてきているか意識しながらケアが行われています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	月に1回オープンデーを開催し、ちまきづくり、保育園との交流、講習会(認知症や感染症など)による地域住民との交流等、事業所への理解を深める取り組みをされています。その際にはチラシを作成し、自治会を通してPRをされています。また、今年から自治会へも加入され地域の祭りに参加しておはぎを振る舞うなど、地域住民との相互の交流が深まってきています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価への取り組みの狙いについて資料を作成し、職員個々に意義が浸透しています。自己評価にあたっては職員全員が個別に作成し、まとめていく段階で共有され、運営者に報告されています。評価をもとに改善計画シートを作成し、年間計画、目標に反映され、オープンデーへの取り組み、自治会加入などへ活かされています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回開催され、サービスの在り方、防災、外部評価などについて意見交換が行われています。運営推進会議は、会議の構成メンバーでもある自治会、町などの日常における協働にも繋がっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月広報紙の配布時には町へ事業所の状況が伝えられています。また、町が行う研修会に事業所職員が参加する等されています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	広報紙の発行、来所時の面談等の際利用者の健康状態等が伝えられています。金銭管理の記録については家族の確認を取られています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時には第三者機関を含む苦情受付の案内をされています。ホーム内にも掲示し、意見箱の設置とあわせて日ごろから意見収集に努められています。相談受付から対応に至る書式の整備もされています。家族会を開催し、家族同士の意見交換の場とされています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者、職員ともに馴染みの関係の重要性を理解し、運営規程にも継続性を重視する旨が定められており、定期異動等はありません。また、同法人内の他の事業所と兼務職員を1名配置する等事業所独自の体制も整えられています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の職員の年間計画が作成され、内部研修や外部研修へ職員が参加されています。個々の職員の外部研修への参加希望の声にも配慮がなされており、また内部での伝達研修も行われています。日々の業務の中では管理者が職員育成を意識しながらアドバイスをされています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内グループホーム間での相互研修が行われています。また、県グループホーム協会、介護支援専門員連絡協議会中部支部の連絡会等へ参加し、管理者、職員ともに交流、学びの機会とされています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に、本人及び家族の事業所見学、職員による自宅訪問など徐々に馴染むための段階をふまれています。また、やむを得ず急な利用が必要である場合には、家族、関係者の協力を求め、本人の安心感につなげるよう努められています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の趣味、得意なことの把握に努めるとともに、表情の読み取りにも気を配りながらの支援が行われています。野菜作り、漬物作りなど本人の好きなこと、得意なことを教えてもらったり、本人から「もったいない」という気持ちについて学ぶなど、一方的な介護にならないよう場面づくりをされています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始時における把握のみではなく、日々の生活の中での本人、家族、職員の声を専用シート、経過記録に記録され職員間で共有されています。入居者会を開き、談話形式で要望や意見を引き出し、一人ひとりの望む生活へとつなげられています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の日々の生活の声、面会時の家族の声を聞きながら、介護のみではない日々の生活の支援となるよう、職員全員による検討を重ねた上で計画が作成されています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月に1回を基本としながらも、日々ともに暮らしていく中において本人の状況を読み取りながら計画の見直しが行われています。日々の記録の中で、変化のあった点、注意すべき点などは他の職員にもわかりやすいように記載し、家族の意見、かかりつけ医の助言などもあわせて計画が作成されています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制等を活用しながら、本人、家族の希望に応じて事業所での生活の継続、協力医による24時間体制の医療処置が行われています。通院、墓参りなどの外出支援等希望及び必要に応じた支援が行われています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族と相談したうえでかかりつけ医の受診が行われています。現在の利用者は隣接の協力医がかかりつけ医となっていますが、入居前からの近隣市町村の主治医に決めた場合にも、通院、付き添い支援が可能となっています。協力医と併せて、24時間の適切な医療受診支援が行われています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合における事業所の指針が定められています。入居時に希望を聞き取りますが、その後の生活の変化に応じて利用者と家族の意思確認が行われています。実際に終末期対応となった場合、記録ノートを作成し、職員と家族で共有されています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	事業所の個人情報保護方針を基に内部研修を行うとともに、外部の接遇研修にも参加されています。日ごろの生活の中で一人ひとりの尊厳とプライバシーを守りながら接するよう心がけられています。広報紙に利用者の写真を掲載する場合は本人に確認をとられています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその時々々の気持ち、体調に配慮をされています。利用者から外出希望がある場合は、職員の勤務体制を変更して対応されています。食事のペースも個々に合わせたものとなっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの力に応じて、調理、具材の下準備等を職員とともにされています。食事前に利用者、職員全員で嚥下体操、唱歌を行う等利用者と職員が同じテーブルを囲んで楽しく食事ができるよう努められています。近隣住民が食材を持ち寄られることもあります。食事介助は利用者それぞれの必要に応じて行われています。湯呑、茶碗も個々のものが使用されています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間など一人ひとりの希望を確認しながら入浴支援が行われています。医師の助言を得ながら体調にも配慮し、時には足浴にも対応されています。夜間入浴の希望があった場合の対応については検討がなされているところです。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用開始時及び日ごろの聞き取り、表情の読み取りなどから楽しみの把握に努められ、シートに記録し、職員間で共有されています。裁縫、園芸、あやとり、習字などの趣味、外出してジュースを飲んだり、子どもとの交流会で趣味の披露など、張り合いや楽しみのある支援が行われています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりが希望を表わせるよう、職員は日ごろから声掛けをされています。ホームの周辺を散歩したり、玄関の腰かけ用ベンチを移動させて周囲の景色を眺めるなど、一人ひとりの希望に沿った支援をされています。	○	利用者が重度化していく中で、身体機能に応じた外出支援のあり方を検討されるよう期待します。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者に対してさりげない見守り、同行を行われています。利用者の状態把握に努めることにより鍵及びチャイム、センサー等に頼らない支援をされています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回利用者とともに避難訓練を消防署の指導のもとに行われています。また、夜間の災害も想定しながら定期的に職員による訓練も行われています。スロープを設置したり、隣接の保育園側に通り抜けられるよう柵を改良するなどの工夫もされています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事、水分摂取は記録され把握に努められています。法人内の栄養士による個別アドバイス、嚥下状況に応じた介護計画の見直しも行われています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木目を基調とするホーム内は採光がよく、季節感のある壁飾りや手作りのカレンダー、くつろげる音楽などにより、心地よい空間づくりがされています。共有の和室があり、ソファでくつろいだり、お手玉など利用者の趣味の小物も置かれています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた家具、寝具が使用されています。絵手紙、毛筆、大正琴など趣味の道具や大切にしている私物を持ち込み、本人が居心地良く暮らせるよう、また楽しめるように配慮されています。温度調節、換気などは職員により適宜行われています。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホームこころの里
所在地 (県・市町村名)	鳥取県東伯郡北栄町瀬戸38-5
記入者名 (管理者)	原田 美千子
記入日	平成 21 年 9 月 1 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	○	今後も理念に沿った介護ができていないか振り返ったり、職員全体で話し合う機会を持ち、具体的なケアについての意識の統一を図っていきたい。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	○	今後も地域の集まりやイベントの参加の他、利用者が地域の中で暮らし続けることの大切さを、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	○	地域の一員として地元の活動や地域住民との交流に積極的に取り組み、利用者が地域とつながりながら暮らし続けることを支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	見学や、相談、高校生の職場体験実習等の受け入れも積極的に行っている。 ホームで開催するオープンデーを活用し、地域の方へ食中毒予防について啓発するなどの取り組みをしている。	○	職員による寸劇をオープンデーや地区の集まり等で披露し、認知症への理解を深めたり、認知症の予防など地域の高齢者の暮らしに役立つ取り組みを行っていきたい。
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意識や目標を全職員に伝え、全員で自己評価に取り組みサービスの質の向上に努めている。	○	サービス評価を全職員で取り組み、ケアの見直し、今後取り組む課題を見出してサービスの質の確保に活かしていく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議を開催し利用者の状況やホームの活動状況を報告している。昼食を共にしてホームの様子をみてもらったり、自己評価や外部評価の結果等についても報告して意見をもらうようにしている。 地域住民の委員の方より事業所と地域との交流促進のための助言、協力をいただき協働して取り組みを行っている。	○	運営推進会議のメンバーからなるべく多くの意見をいただき改善にむけた具体的な取り組みにつなげていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月広報紙を通してホームの様子やケアサービスの取り組みを伝えている。 市町村が開催する研修会に積極的に参加し、サービスの質の向上に取り組んでいる。	○	市町村担当者との関係づくりを積極的に行い、運営やサービスの課題解決に向けて連携を強化していきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	事業所内でリーフレット等を活用した学習会を開き、全職員が理解していくよう努めている。	○	継続的に学習会等開催し、全職員が更に理解を深めていけるよう努めていく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	市町村が開催する研修会に参加したり、事業所内で高齢者虐待防止法に関する学習会を開き、全職員が理解してくよう努めている。また、日常の介護場面における言動が虐待に当たらないか振り返る意味で、「高齢者虐待例」を事務所に掲示し、喚起している。	○	継続的に学習会等開催し、全職員が更に理解を深めていけるよう努めていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時にはサービス全体の内容を丁寧に説明し、利用者や家族の不安や疑問点に対しては十分な説明を行い、納得を得た上で手続きを進めている。</p> <p>契約時には外部評価の結果についても説明を行っている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>普段の関わりの中で利用者の意見、思いを察し、利用者本位の運営を心掛けている。</p> <p>また、入居者会を開催し利用者の要望や意見を出していただき、日々のケアや運営に反映させるよう努めている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>毎月発行の広報紙や来所時には暮らしの様子や心身の状況についてきめ細かく報告するように心掛けている。</p> <p>金銭管理は入納帳に記入し、ご家族に確認していただいている。</p>	<p>○ 今後もきめ細かく、丁寧に報告しながら家族が要望や本音を出しやすいように働きかけをしていく。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>契約時に、事業所内や市町村外部の相談窓口について紹介を必ず行っている。</p> <p>意見箱を設置したり、普段の来所時や家族会等、意見を聞いていただけるよう声かけをしている。</p>	<p>○ 家族が意見を出しやすくなるよう繰り返し働きかけを行っていく。</p> <p>アンケートを実施し、家族からの声をサービスに反映させていく取り組みを行っていきたい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員の要望や意見を聞くように心がけている。</p> <p>毎月のフロアー会議などで話し合って意見を反映させ質の向上につながるよう取り組んでいる。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の状況の変化等、臨機応変な対応が必要な場合には管理者と職員がよく話し合いながら協力して勤務の調整をしている。</p> <p>夜間の緊急時に備えた対応として母体近隣職員の応援体制を作っている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者、ご家族への信頼関係を築くためにも、馴染みの関係を保つことを重視し、職員の異動は極力避けるよう努めている。</p> <p>また、姉妹施設との兼務職員を1名配置しており、欠員等あった場合に、緊急対応がとれる体制となっている。</p>	<p>○ 新職員を採用した場合においても、利用者(職員含む)に混乱を来たさないよう、兼務職員体制を継続していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年間計画の中で研修を位置づけ、なるべく多くの職員が法人内外での研修に参加できるようにしている。研修内容を全職員が共有できるよう伝達の機会を設けている。</p>	<p>○</p> <p>職員の経験年数等、個々に応じた研修体制を整え、職員育成に取り組んでいく。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム相互研修や市町村が開催する研修会等を通じて、他施設の方の意見や取り組み等をケアに活かしている。</p>	<p>○</p> <p>姉妹施設同士で相互研修等の連携を図り、お互いのホームの改善や質の向上へ向け、取り組んでいきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>日常的に職員間の話し合いの場を多く持ち、何でも言いやすい職場環境作りに取り組んでいる。悩みや相談等、職員の生の声を聴くような個別面談の機会を持ち、その都度相談に乗り解決に努めている。</p>	<p>○</p> <p>職員体制、利用者の状況をみながら、ゆとりのある時は休憩時間を確保するよう努めていきたい。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>事業所内の状況や変化、また職員の努力や成果を、人事考課等を通じ、把握するよう努めている。</p>	<p>○</p> <p>職員個々のモチベーションが高まるような職場関係作りに努めていきたい。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>サービスの利用について相談のあった時には、必ず本人に会って、心身の状態や本人の思いに向き合い、職員が本人に受け入れられるような関係作りに努めている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談される家族の立場に立って話をしっかり聴き、ご家族の思いを受け入れながら、関係を築いていくことに努めている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の思い、状況等を確認し、事業所で行える支援を相談したり、必要に応じて他のサービス機関へつなげる対応を行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならぬよう徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人やご家族に事業所を見学していただくことから始め、利用開始前には職員が会いに行ったり、事業所に来ていただき短時間でも過ごして頂く等、徐々に馴染んでいただけるよう支援している。 やむを得ず緊急の利用となった場合には、ご家族やそれまでかかわっていた施設の相談員等に協力を求め、安心感を持ってもらうよう努めている。	○	利用待機者に、いつでもホームに立ち寄っていただける環境を整えていきたい。
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者個々の出来ることや得意の分野で力を発揮していただき、お互いに支え合って、和やかな生活ができるような場面づくりや声かけに配慮している。	○	本人の思いや根本にある苦しみや、不安、喜びなどを知ることにも努め、共に支え合える関係で一緒に過ごしていく。
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の思いに寄り添いながら、職員も本人を支えるために家族と同じような思いで支援していることを伝えている。 利用者の暮らしの様子や、職員の思いをきめ細かく伝えるよう努めていくことにより、本人を支えていく為の協力関係が築けることが多くなってきている。	○	今後もホーム内での暮らしや介護にも家族が関われる場面や機会作りをして共に本人を支えていく関係を築いていく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時にはゆつくりと話したり過ごしたりしていただいている。 暮らしの様子を伝え、より良い関係が築いていけるよう支援している。 手紙をご自身で書いてもらう支援などで、遠方のご家族とも関係が途切れないように留意している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者個々の思いを大切にしており、身体機能が低下してもこれまでの関係が途切れないよう通所利用者との交流、いきいきサロンへの参加や本人の馴染みの場所や墓参りの外出支援などに努めている。 手紙等で家族とのつながりが継続できるよう支援している。	○	今後も本人を取り巻く人や支えてきた人との関係が途切れないよう、継続的な交流が図れるよう働きかけていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	みんなで楽しく過ごす時間や役割活動等を通して、利用者同士の関係がうまいくように職員が調整役となって支援している。 仲間とのコミュニケーションが図りにくい方へは孤立しないよう職員が仲介役となり関わりあえるようにケアしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用中に築いた関係性を大切に、その後も継続的な付き合いができるように心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声を掛け、利用者一人ひとりの思いを把握するよう努めている。 意思疎通が困難な方は表情から思いを推し測ったり、利用者の視点に立って職員で意見を出し合い話し合っている。	○	利用者の中にはご家族や職員を気遣い、自分の思いを表出されない方もおられるので、言葉にしづらい思いも日々の関わりの中で把握するように努め、その人らしく暮らせるよう支援していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人からの話や、家族の協力を得ながら生活歴の把握に努め、持っておられる力を発揮しながら、その人らしく暮らしていけるよう支援している。	○	今後もプライバシーへ配慮しながら、利用者と丁寧に関わり、本人自身の語りやご家族の訪問時など少しずつ把握に努めていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	1日の過ごし方や心身状態をケース記録や、昼・夜に分けたシートに記入し、全職員で情報を共用して日々の介護や介護計画に反映している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人やご家族には日々のかかわりの中で思いや意見を聞き反映させるようにしている。 よりよく暮らせるようアセスメントに留意し、全職員で気づきや意見を出し合い、一人ひとりの状態や希望に向きあいながら介護計画を作成している。	○	今後も可能な限り計画について本人と話し合い、意向やアイデアを反映させた利用者主体の介護計画作成となるよう取り組んでいきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヵ月ごとの見直しを基本としている。ご家族やご本人の要望を取り入れつつ、期間が終了する前に見直し、状態が変化した際は終了する前であっても検討、見直しを行なっている。	○	可能なご家族には、期間が終了する前に時間をいただき介護計画の遂行状況、効果などの評価と利用者の状態変化や状況を伝えて、今のご家族の意向を伺うなど、見直し段階で計画作成に関わってもらっている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事・排泄等身体的状況と日々の暮らしの様子や状態変化、職員の気づき等、ケア記録に記載している。重度化された場合には、さらに詳しい別記録にして、職員間の情報共有を徹底している。個別記録を基に介護計画の見直し、評価を実施している。		
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かし、医療処置を受けながら生活の継続の支援をしている。本人、家族の状況に応じて通院や特別な外出等、必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民主児童委員、公民館、保育所、消防署、駐在所や地域の方々の協力を得ながら、安全でより豊かな暮らしを楽しめるよう支援している。	○	今後も地域とのさまざまな接点を見出し、地域の人や場の力を借りて生き生きとした暮らしの支援に努めていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人や家族の希望もあり主治医と相談し同一法人内で受けるリハビリサービスに通っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員の方が参加して下さることで情報交換や相談にのって頂くなど関係が強化されてきた。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族に相談し希望とするかかりつけ医となっている。受診、通院は主に職員が同行しているが、家族の協力が得られる方もある。緊急時には往診に来てもらうケースもあり受診の結果は家族に連絡し、状態を伝えたり、相談したりしている。又、訪問歯科診療に来てもらうなど複数の医療機関と関係を結び適切な医療が受けられるよう支援している。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医は、認知症の人の医療に熱心で助言をしてもらっている。 状態変化の見られる方の中には、ご家族と相談して専門医を受診し、鑑別診断や必要な薬の見極めなど指示や助言を受けている方もある。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護ステーションとの契約に基づき日々の健康管理や医療面での相談、助言、対応を行なってもらっている。気軽に相談できる関係ができており、看護師と医療機関との連携も密にとれる体制が確保されている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供している。 家族とも情報交換しながら回復状況等や速やかな退院支援に結びつけている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に対する対応方針を定め事業所が対応できるケアについて説明し、同意をいただいている。 状況や状態変化があるたびに、ご家族の気持ちの変化や本人の思いに注意を払い、支援につなげている。	○	終末期に対する方針を一度決められた後も、本人やご家族の安心と納得を得られるように、状況の変化のたびに主治医を中心としたチームでの話し合いを、繰り返し行っていく。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人の気持ちを大切にしつつ、ご家族と話し合い、利用者が安心して終末期を過ごしていただけるよう職員間の連携を密にして取り組んでいる。 急変した場合は、直ぐ対応して頂けるよう医療機関とも密に連携を図り、対応している。	○	利用者の状態の変化に備えて、知識や技術向上の為、今後も外部研修へ参加し伝達講習を行うなどチームとしての支援に取り組んでいきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	新しい住まいでも、これまでの継続性が損なわれないように生活環境・支援内容・注意が必要な点について情報提供し、きめ細かい連携を心がけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	法人の研修に全職員が参加し、意識向上を図るとともに日々の関わり方でも利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応を心がけている。 内部研修を開催し全職員が個人情報保護法の理解に努め、情報の漏洩防止の徹底を図っている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常生活の中で、一人ひとりの力に合わせて利用者自身が決定したり、複数の選択肢を提案する等自分で決めることのできる場面作りに努めている。	○ 今後も利用者に合わせて声を掛け、意思表示が困難な方には、表情を読み取ったりして些細なことでも本人が決める場面をつくっていききたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、時間を区切った過ごし方だけではなく、利用者一人ひとりの体調や状態に配慮しながら、その日、その時の本人の気持ちを尊重して、柔軟に支援するよう努めている。	○ 利用者の「～したい」という声を大切にして、できるだけその時々思いを叶えるよう希望に応じて柔軟に支援していくよう努めていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	起床時の洗面から個々の生活習慣に合わせ支援し、その人らしいおしゃれができるよう努めている。 外出や行事、誕生会等は、その人らしい装いで楽しんでもらえるよう支援している。 理美容は本人や家族と相談し、行きつけの店やボランティアの方に対応していただいている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りは、利用者個々の力を活かしながら、職員の見守りや支えにより力を発揮していただけるよう努めている。 献立は利用者の希望や旬の食材、新鮮なものを取り入れ利用者と職員が同じ食卓を囲んで楽しく食事ができるような雰囲気作りをしている。食事の前には嚥下体操を施行している。	○ そのことをやってみようという前向きな意思や気持ちを引き出すような声かけや場面づくりの工夫をし、食事の一連の作業を利用者と職員と一緒に協力しながら行っていく。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者一人ひとりの好みや意向を大切に、本人の様子や時間を見ながら、それを楽しめるよう支援している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を利用し、尿意のない利用者にも時間を見計らって誘導することにより、トイレで排泄できるよう支援している。 一人ひとりの排泄サインを把握し、羞恥心に配慮しながらさりげなく支援している。	○	今後もさりげない誘導や、失敗した場合でも極力本人が傷つかないよう、周囲に気付かれない等の配慮を意識しながら対応していきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者にその日の希望を確認したり、必要に応じて午前・午後で臨機応変に対応している。 利用者個々の状態に合わせて安全に安心して入浴を楽しめるよう支援している。 寒い時期には、足浴にも対応している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活のリズムを整えるよう努めている。また利用者一人ひとりの体調や表情等に気をつけたり、部屋の空調にも配慮し、安心して気持ちよく休めるよう声をかけている。 寝つけない時には話し相手となったり、飲み物等を提供している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野で利用者一人ひとりの力を発揮していただけるよう、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。 又、潜在している記憶や力を引き出し、より豊かな暮らしが送れるよう新たな役割や楽しみごとなどを作り出す働きかけも行っている。行ってみたい所や行事参加の楽しみ事など	○	今後も利用者一人ひとりに合った役割、楽しみごとが継続でき、本人の満足や喜びにつながるよう支援していく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談しながら、利用者一人ひとりの力や希望にあわせて対応している。 外出時、好きな物を購入していただけるよう支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や本人の気分・希望に応じて心身の活性につながるよう、屋外散歩等働きかけている。身体機能の低下などにより介助時間が増えていることもあって外出の時間が取りにくくなっているが、短時間でも戸外に出て気分転換できるよう支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人、家族から申し出がなくても、事業所側から希望を出してもらえよう声かけをして実現に向けた取り組みをしている。遠くの場所への外出については予め計画を立て、職員の勤務を調整する等しながら対応している。 母体施設の協力もありイベント等に出かけることもある。	○	家族あての広報紙に本人の気持ちを伝えることで、ご家族との外出につながった例もある。 家族会で外出してみたいという声もあり、今後また検討していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話の利用を促したり、書ける人には自ら手紙を書いていただくよう支援するとともに、ご家族、知人等からの手紙や電話も歓迎している。 また、本人のメッセージを職員が代筆してご家族に送る対応もしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご都合のいい時間帯に気軽に訪ねて来ていただき、本人とゆっくりと過ごしていただいている。 必要に応じて、さりげなく会話の間を取り持つような配慮も行っている。	○	母体施設を利用される友人等、いつでも気軽に訪問できるよう通所職員と連携を図っている。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	目配り、気配りの強化や職員間の連携により身体拘束のないケアを行なっている。また、「身体拘束の具体的な行為」を事務所に掲示し、職員へ喚起している。 立ち上がりの為や夜間の転落防止の為のベットの柵利用は事前に家族の同意を得ている。	○	全職員で、身体拘束廃止の勉強会を継続的に行う等身体拘束廃止に向けたケアに取り組んでいきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけず、外に出て行かれる気配を見守り、さりげなく声をかけたり、一緒に歩く等している。 その日の気分や状態をきめ細かくキャッチし、職員間の連携を密にして、安全面に配慮しながら、自由な暮らしを支援している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	様々な業務を行ないながらも利用者の動きやサインが察知できる、見守りやすい位置を意識し、常にさりげなく見守っている。夜間は数時間毎の巡視をするとともに、起きられた時に直ぐ対応できるような工夫をしている。	○	今後もカンファレンスや申し送り等で一人ひとりの様子を確認しあって、職員間の連携を図り安全に配慮していきたい
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況に合わせて、注意が必要な物品は何かを職員で把握し、管理方法の取り決めをしている。 薬や刃物は鍵のかかる場所に保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者一人ひとりの状態から予測される危険を検討し、事故を未然に防ぐよう努めている。 転倒等の事故が発生した場合には、速やかに安全報告書を作成、母体施設安全委員会に提出し、問題点をさぐり再発防止に向け話し合いを行い、ご家族への説明を行っている。 誤嚥防止の為の嚥下体操や、運動・生活リハビリ等で転倒防止にも努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	けが、骨折、発作、のど詰まり等の対処方法についての資料を配布し、職員間で定期的に確認し合う機会を設けている。 夜間の緊急時にも慌てずに確実かつ適切な行動が取れるよう、夜間の緊急時の手順を取り決めている。 消防署の協力を得て、全職員が救命救急法の講習を受け、事業所内でも定期的な訓練を行っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回利用者と共に避難訓練を行っている。 消防署の指導の下、避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方等の訓練を行っているほか、防火管理者を中心に職員間で防災意識を高め定期的な訓練を行っている。	○	できる限り地域の方と連携を図り、訓練が実施できるよう取り組んでいきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて把握するよう努めている。 状況変化に応じてご家族には、本人の状態や事業所の工夫や取り組みについて説明し、ご家族の納得の上、抑圧感のない暮らしの支援している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日朝食後にバイタルチェックを行い、日々の健康状態を把握しており、個人記録に残している。 体調や些細な表情の変化も見逃さないよう早期発見に努め、気付きは職員間で共有し、状況により医療受診につなげている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カードックスを利用し、全職員が薬の内容を把握できるようにしている。 服薬前には間違いのないよう二重チェックをしており、服薬時には見守り介助を行って確実に服用できるよう対応し、服薬チェックをしている。薬の処方や用量の変更により、本人の状態変化が見られるときには、医師に相談している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	利用者全員の方の排泄状況を毎日チェックし、排泄習慣の把握に努めている。 飲水量を増やす、きなこ牛乳、ヨーグルトやお茶ゼリー、自家製バナナ酢の摂取、運動の働きかけに取り組んでいる。 必要に応じて、腹部マッサージ等の対応も行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	利用者の気持ちに配慮しつつ、一人ひとりの力に応じた口腔ケアの介助を行っている。 就寝前は義歯洗浄を行い、定期的に洗浄剤を使用して清潔にしている。	○	歯科医より口腔ケアについて指導を受けており、今後も一人ひとりの口腔状態に応じた支援に努めていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し栄養や飲水量がどの程度とれているのか、おおよその量を職員全員が常に意識しながら関わっている。 利用者一人ひとりの状態に合わせて、水分確保の為のお茶ゼリーを作ったり、食が進むよう個別の支援をしている。また、必要に応じて母体施設栄養士のアドバイスを受けている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	事業所内で起こり得る感染症について、全職員で学習して予防や、対策に努めている。塩素系の消毒での清掃や、うがい、手指消毒の徹底、ペーパータオルを使用する等、感染症予防に努めている。 利用者および家族に希望を伺い同意をいただいて、職員共にインフルエンザの予防接種を受けている。	○	今後も感染症の流行や対応策についての情報収集に努め、新しい知識、技術など全職員が繰り返し学ぶ機会を持ち、感染症の予防・対策に努めていきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒のマニュアルを作成し、全職員が分担して常に台所の清潔を心がけ、衛生管理に努めている。 毎食後、食器や調理器具は食器乾燥機で高熱殺菌し、夕食後には布巾の熱湯消毒を行っている。 食材は鮮度を確認し、安全な食材で無駄なく使用するよう工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	場所が分かりやすいよう看板を立て、玄関周りには草花を植えるなど等、温かみのある雰囲気作りをしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の気持ちになってホーム内の様子を点検したり、心地よい音楽や、行事ごとの飾り付け等で五感や季節感を意識的に採り入れる工夫をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由にくつろげるよう、ソファやベンチ等を用意している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者個々の、使い慣れた家具や、寝具を持ち込んでいた だいている。 本人の大事なものを飾る等、自由な居室作りで利用者が居 心地よく過ごせるように工夫している。		
84	気になるにおいや空気のおどみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこま めに行っている	共有のスペース、居室共に適宜換気し、室温調節も行っ ている。 外気との温度差がある時は、温度計と利用者の様子、声を 聞きながら、こまめに室温調整している。 利用者の状態や状況に合わせてながら、安全面にも配慮して 換気を行っている。		
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れる ように工夫している	利用者の身体機能の変化にあわせ、生活環境を見直し、安全 に自立した生活が送れるよう、和室・居室・浴室・洗面台 に手すりを追加設置する等の対応を行っている。	○	車椅子でも使用できる洗面台等、利用者の身体機能の変 化に配慮して、生活環境の改善にも取り組んでいきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	本人にとって「何が分かりにくいのか」「どのように伝えたら理 解しやすいのか」「どうしたら本人の力でやっていただけ るか」を皆で検討し合い本人の力を活かして暮らしていただ けるよう努めている。	○	今後も、日によって変化のみられる利用者の状態やわか る力を職員間で情報共有し、意欲を引き出したり、不安材 料を取り除く等、それぞれに合わせた対応を行っていく。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	花や野菜を育て、成長や収穫を楽しんだりしている。 隣接の保育園児と交流しやすいよう垣根の工夫をしたり、玄 関先にベンチを置いて利用者が涼んだり、日向ぼっこでき るようにしている。 玄関スロープを歩くこともリハビリになっている。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

○当地区は、保険・福祉の拠点となっており、また、隣には保育所もあり、幼少期から福祉体験も出来ることから、相互理解も得やすい。

○オープンデーを開催し地域の方に来ていただいたり、地区自治会長や民生児童委員の協力もあり、子供会や地域の方との交流が年々深まっている。また、隣接する保育所とも交流を図っている。

○法人母体との連携により、利用者の健康管理が行き届いており、利用者・ご家族にとって安心が得られている。

○併設の老人保健施設との合同研修会等に出席することもあり、幅広い知識の習得が可能である。

○利用者のより良い生活に向け、ホームとご家族が良い関係を築き、それぞれの思いに寄り添いながらの支援に努めている。

○何事においても職員間で、相談や意見交換を行い、利用者のより良い暮らしに向けて意識統一を図っている。